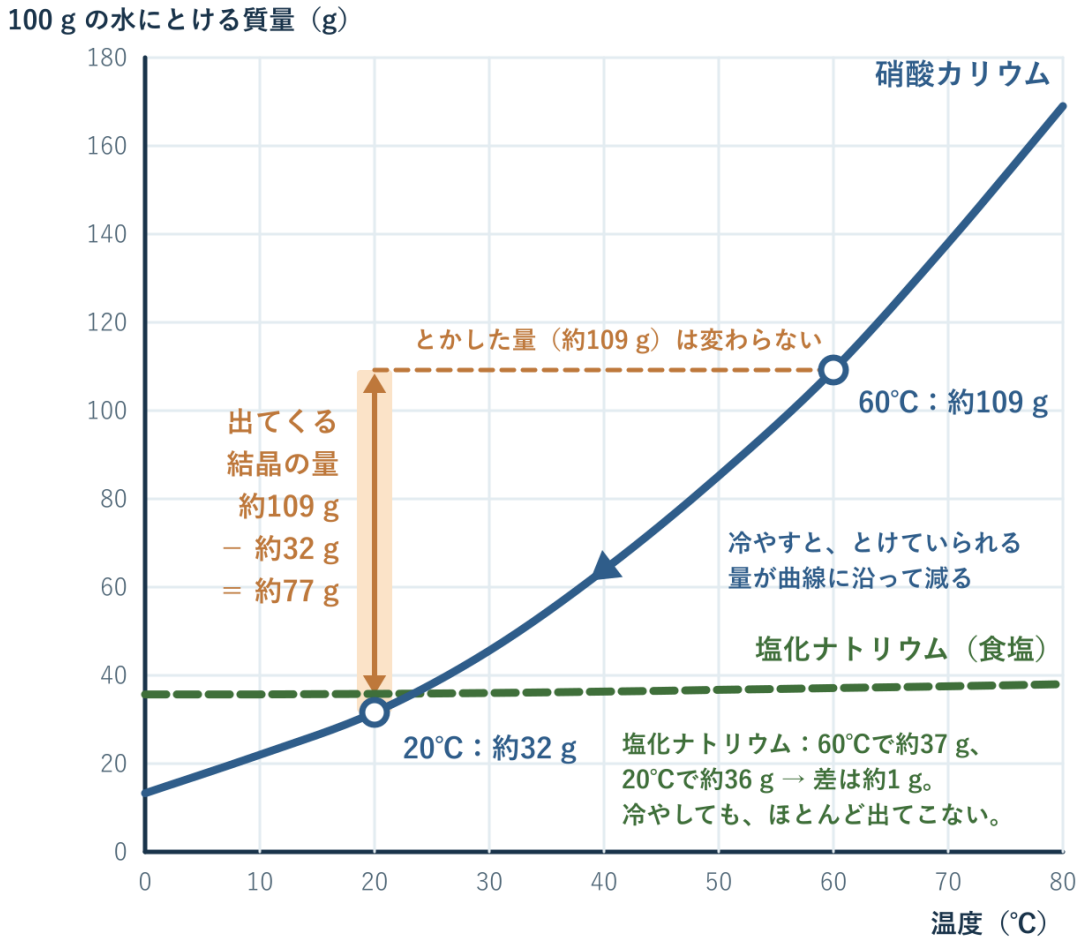
溶解度曲線から出てくる結晶の量を読む

60°Cの水にとかした物質を20°Cまで冷やすと、どれだけの結晶が出てくるか。物質でなぜ違うのか

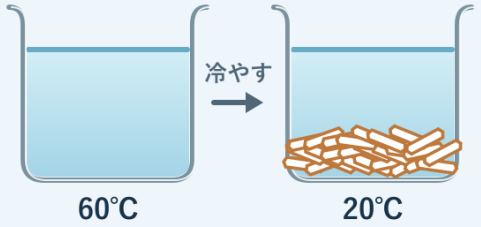
溶解度曲線（100 g の水にとける物質の質量）



20°Cまで冷やすと

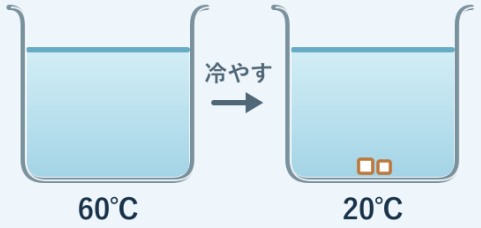
60°Cの水100 gに、とけるだけとかした
水溶液（飽和水溶液）を20°Cまで冷やす。

1 硝酸カリウム



結晶が
約77 g
多く出る

2 塩化ナトリウム



結晶は
約1 g
ほとんど出ない

温度で溶解度が大きく変わる物質ほど、
冷やすと多くの結晶が出る（再結晶に向く）。
塩化ナトリウムは、水を蒸発させて取り出す。

注意：熱い水溶液でやけどをしない。保護眼鏡をつける。

※ 溶解度は一般的な値をまるめたおよその値。曲線は値をなめらかにつないだもの。結晶の形と量は模式。